

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）		
教科目 (時間数)	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）
訓練礼式 (50h)	消防人としての基本をつくるため、訓練、礼式、点検を通じて、意識、行動、礼節、品位等を習得、向上させる。	訓練礼式の概要 各個訓練 通常点検 敬礼動作 敬礼動作 辞令等の受領 小隊訓練 申告等 効果測定	48h	各個訓練 通常点検 敬礼動作 辞令等の受領 小隊訓練 申告等	【各個訓練】 個人の動作訓練。「気をつけ」、「前へー進め」等。 【部隊訓練】 部隊での動作訓練。「右へーならえ」、「くみぐみ左へ進め」等。	・転倒して負傷する。 ・無秩序に動いて他の隊員と衝突し負傷する。	C	(4) 訓練礼式
機器取扱 訓練 (50h)	①消防機器の使用用途と使用目的を把握する。 ② 消防機器取り扱い方法の基礎知識を確認し、消防活動における機器取り扱い方法を習得する。	消防機器の概要 各種資器材の諸元・性能・取扱要領・保守管理要領等 効果測定	55h	基本結索・命綱・座席結び	消防活動に必要なロープの結び方。	・ロープの端末を不用意に振り回すと負傷する。	C	(5) 基本訓練 ア ロープ訓練
				ロープ取扱要領	長いロープの巻き取り方法、ロープの投下方法。	・投下地点を確認せずにロープを落とすと人に当たり負傷する。	C	(5) 基本訓練 ア ロープ訓練
				器具結索	消防活動に必要な資器材(空気ポンベ、空気呼吸器、斧、とび口、かぎ付きはしご、三連はしご、ポリタンク)の結着方法。	・ロープの結びが緩いと、結着した資器材が落下し、落下物により負傷する。	C	(5) 基本訓練 ア ロープ訓練
				三連はしご操作	高所に進入するための資器材である三連はしごの取り扱い方法を、基本操作方法に基づいて教える。	・引き綱緩み又は掛け金の外れにより梯子が縮み指を挟む。 ・梯子のバランスが悪いと梯子が転倒する。 ・梯子を垂直に伸ばさないとバランスを崩し転倒する。 ・梯子上での作業時、作業姿勢をしっかりとらないとバランスを崩し転落する。	A	(5) 基本訓練 エ 梯子取扱 (ア)を除く
				空気呼吸器操作	火災現場にて使用する、空気呼吸器の取り扱い方法を、基本操作方法に基づいて教える。	・呼吸器を背負う時振り回すと、周囲の人に衝突する。また、自分自身も腰を損傷する。 ・器具の取り扱い不良により呼吸ができなくなる。	C	(5) 基本訓練 イ 空気呼吸器取扱
				濃煙内熱気体験訓練	コンテナ内の水槽に入れたガソリン及び灯油に火を付け煙を充滿させる。その中に学生を進入させ濃煙の動き、熱気を体感させる。	・濃煙熱気内で立ち上がると熱傷を負う。 ・濃煙を吸入し一酸化炭素中毒を起こす。	B	(6) 応用訓練 キ 濃煙内熱気体験訓練
				検索救助操法第1法	空気呼吸器を背負い屋内に進入する方法を、基本操作方法に基づいて教える。	・呼吸器を背負う時振り回すと、周囲の人に衝突する。また、自分自身も腰を損傷する。	C	(5) 基本訓練 イ 空気呼吸器取扱 (5) 基本訓練 サ 投光器取扱
				各種器具取扱訓練	油圧救助器具(スプレッター・カッター)、エンジンカッター、チェンソー、可搬式ウインチ(チルホール)の取り扱い方法。	・油圧救助器具の高圧ホース取り付け部が外れ負傷する。 ・エンジンカッター、チェンソーの思わぬ反発により自身及び周囲の人が負傷する。	B	(5) 基本訓練 オ 油圧救助器具取扱 (5) 基本訓練 キ エンジンカッター取扱 (5) 基本訓練 ク チェンソー取扱 (5) 基本訓練 ケ 可搬式ウインチ取扱

※ 消防学校の教育内容は、平成26年度の教育カリキュラム

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）		
教科目 (時間数)	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）
消防活動 訓練 (80h)	消火活動における基本的知識、 技術の習得が目的である。また、 体力向上のための、ホース搬送 訓練を継続して実施することで、 精神面の強化も図っている。 具体的には消防ポンプ車操法から 始まり、消防ポンプ車に積載され ている機械器具を活用しての放水 訓練、訓練塔及び廃車車両を 使用しての火災想定訓練等、 基本的な訓練から、より現場活動 に即した火災防ぎ訓練等を実施 している。	訓練の概要 ポンプ自動車 放水訓練 警戒区域設定 効果測定	84h	ホース取扱訓練	ホースの担ぎ方、下ろし方、展長要領等。	・ホースの金具が体にあたり負傷する。	C	P11 (7)実戦訓練 ウ ホース延長
				ホース延長訓練	折り島田ホース、狭所巻きホースの作成要領、ホースカーへのホース収納要領及びホースカー取扱要領の習得。二重巻きホース、二股分岐管及び管そうを使用し、放水するまでの操作の習得。	・ホースカーに挟まれる。 ・ホースの結合部が外れ体にあたり負傷する。	C	P11 (7)実戦訓練 ウ ホース延長
				ホース搬送訓練	肩にホースを担ぎ、グラウンド、山道にてランニングによりホースを搬送する。	・体への過度な負荷により負傷する。	B	P11 P12 (7)実践訓練 ウ ホース延長 (11)体育
				着装訓練	防火衣の着装訓練。	・防火衣のベルトの金具が体にあたり負傷する。	C	P3 ※第4 安全点検の基準 (2)教育訓練の準備 ウ 個人装備
				車両誘導要領	ポンプ車の庫車庫の出し入れ。また、訓練時に部署する際の誘導要領。	・車両に轢かれる。	C	P10 (7)実戦訓練 ア 機関運用(エ)
				ポンプ車操法	火災防ぎよの基本的事項及び各消防機械器具の扱い、操作の基本を習得する。(消防ポンプ車の操作、ホース展長、管そう及びびとび口等、資器材の取扱い)	・資器材が体にあたり負傷する。 ・操作員同士が衝突し負傷する。	C	P6 (3)ポンプ操法訓練
				機関員操作要領 (水利部署と吸水要領)	消防ポンプ車の取扱い訓練。(水利部署し、吸管投入、揚水完了までの操作の習得)	・車両に轢かれる。 ・車両乗降時に転倒する。 ・防火水槽へ転落する。 ・防火水槽蓋に手足を挟む。	C	P10 (7)実戦訓練 ア 機関運用 (7)実戦訓練 イ 水利部署
				各種放水器具取扱い訓練	各種放水器具の取扱方法の習得及び注意事項等の把握。	・ホースが破裂し体にあたり負傷する。 ・ホースの曲折部に手足を挟む。 ・ホース等につまづき転倒する。 ・管槍から手を離し体にあたり負傷する。	B	P11 (7)実戦訓練 ウ ホース延長 エ 放水
				放水補助器具取扱訓練	水幕ホースまた水利部署の際に使用する、各種器具の取扱い訓練。	・各種放水器具に手足を挟む。	C	P11 (7)実戦訓練 ウ ホース延長 エ 放水
				泡放水訓練	CAFSを装備した車両を使用しての泡放水訓練。 (CAFS=圧縮空気泡消火システム)	・ホースが破裂し体にあたり負傷する。 ・ホースの曲折部に手足を挟む。 ・ホース等につまづき転倒する。 ・管槍から手を離し体にあたり負傷する。	B	P11 (7)実戦訓練 ウ ホース延長 エ 放水
				建物火災防ぎ訓練	想定を付与した中で実施する、建物火災防ぎ訓練。	・車両に轢かれる。 ・車両乗降時に転倒する。 ・防火水槽へ転落する。 ・防火水槽蓋に手足を挟む。 ・操作員同士が衝突する。	B	P10 P11 (7)実戦訓練 (8)消火訓練
車両火災防ぎ訓練	想定を付与した中で実施する、車両火災防ぎ訓練。	・車両に轢かれる。 ・車両乗降時に転倒する。 ・防火水槽へ転落する。 ・防火水槽蓋に手足を挟む。 ・操作員同士が衝突する。	B	P10 P11 (7)実戦訓練 (8)消火訓練				

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）		
教科目 （時間数）	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）

※ 消防学校の教育内容は、平成26年度の教育カリキュラム

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）			
教科目 (時間数)	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）	
救助訓練 (40h)	人命救助をするための、救助技術の基礎、強靱な精神力及び体力を習得させる。	概要 ロープ取扱技術 救助操作 効果測定	51h	ロープ展張	高所にロープを水平に張る訓練。	・引きずりや捻れにより劣化し、ロープの強度が低下する。 ・可搬式ウィンチの誤操作により負傷する。 ・設営時の転落受傷や落下物により負傷する。	A	P6 P8	(5)基本訓練 ア ロープ訓練 (5)基本訓練 ケ 可搬式ウィンチ取扱
				座席懸垂降下	高所から地面に垂らしたロープを地面まで降下する訓練。	・降下ロープ等が劣化し破断する。 ・カラビナが外れ転落し負傷する。 ・降下中に転落し負傷する。		P6 P9	(5)基本訓練 ア ロープ訓練 (6)応用訓練 イ 降下訓練
				ロープ渡過	高所に水平に張ったロープを渡る訓練。	・展張ロープ等が劣化し破断する。 ・カラビナが外れ転落し負傷する。 ・渡過中に転落し負傷する。		P6 P9	(5)基本訓練 ア ロープ訓練 (6)応用訓練 ア 渡過訓練
				一箇所吊り担架水平救助	担架を活用して要救助者を高所から低所へ救出する訓練	・高所から転落し負傷する。 ・高所からの落下物により負傷する。		P6 P9	(5)基本訓練 ア ロープ訓練 (6)応用訓練 イ 降下訓練 エ 救出訓練
				登はん	高所から地面に垂らしたロープを地面から登る訓練。	・登はんロープ等が劣化し破断する。 ・カラビナが外れ転落し負傷する。 ・登はん中に転落し負傷する。		P6	(5)基本訓練 ア ロープ訓練
				水難救助訓練	ゴーグル、シュノーケル、フインの使用方法を覚え、ボンベとレギュレーターを使用してスキンドайビングを行う(学校のプール)。	・身体能力の限界を超えることにより溺れる。 ・器具の使用法の誤りにより溺れる。 ・水圧により鼓膜が損傷する。		P12	(10)水難救助訓練

※ 消防学校の教育内容は、平成26年度の教育カリキュラム

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）		
教科目 (時間数)	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）
消防活動 応用訓練 (80h)	機器取扱訓練、消防活動訓練及び救助訓練の範疇にない技術の訓練並びに前記3訓練で習得した技術を応用した訓練の実施。	消火活動訓練 救助活動訓練 検索及び救出訓練 火災総合訓練 救急救助総合訓練	82h	確保要領	「確保」とはある位置から移動しないよう保持すること。高所作業等での安全を図るため、その方法を習得する訓練。	・高所から落下し負傷する。 ・ロープの摩擦により手のひらを火傷する。	A	P6 P9 (5)基本訓練 ア ロープ訓練 (6)応用訓練 エ 救出訓練
				徒手搬送	要救助者(負傷者)を器具を使わずに搬送する訓練。	・徒手搬送中に転倒して負傷する。 ・重みで腰部を損傷する。	C	P9 P11 (6)応用訓練 エ 救出訓練 (9)救急訓練
				かかえ救助	はしごを活用して要救助者を保護しながら高所から低所へ救出する訓練。	・梯子から落下し負傷する。 ・要救助者を支えるために身体(腰部)を損傷する。	A	P7 P9 (5)基本訓練 エ 梯子取扱 (6)応用訓練 エ 救出訓練
				かぎ付きはしご	先端にかぎのついたはしごを使用して上階へ進入する訓練。 身動きのできる要救助者の救出手段としても使用される。	・高所から落下し負傷する。 ・梯子の落下・横すべりの危険がある。 ・資機材搬送中に資機材落下の危険がある。	A	P7 (5)基本訓練 エ 梯子取扱
				応急はしご救助	救助手段の一つであり、緊急を要する場合に用いる。 三連はしご及びロープを使用し、自力で動けない要救助者を高所から低所へ吊り下げて移動させる救助方法。	・高所から落下し負傷する。 ・梯子の落下・横すべりの危険がある。 ・資機材搬送中に資機材落下の危険がある。 ・ロープの摩擦により手のひらを火傷する。	A	P7 P9 (5)基本訓練 エ 梯子取扱 (6)応用訓練 エ 救出訓練
				屋内進入訓練	火災現場活動において、煙の特性等を理解した上での活動姿勢はもとより、進入方法の習得。	・視界不良による追突や転倒の危険がある。 ・呼吸器により打撲する。 ・ロープが足に絡み転倒する。 ・呼吸器の取り扱い不良により呼吸ができなくなる。	C	P7 P10 (5)基本訓練 イ 空気呼吸器取扱 (6)応用訓練 カ 濃煙内熱気訓練
				シャッター破壊訓練 (文化シャッター)	消防活動現場における障害物の破壊方法の習得。 シャッター水圧解除(開錠)の習得。	・切断物の飛散により火傷や怪我をする。 ・キックバックにより負傷する。 ・高回転のカッターにより切創する。 ・水圧による反動力で転倒する。	B	P8 P9 (5)基本訓練 キ エンジンカッター取扱 (6)応用訓練 オ 破壊活動訓練
				委託人梯	人をはしごがわりにして通路障害物を回避したり高所へ移動したりする訓練。	・人梯の高所から落下し損傷する。 ・人を持ち上げる際に腰部を負傷する。	C	P9 (6)応用訓練 ウ 登はん訓練
				航空消火及び救出 (県航空隊)	誘導要領の習得。 航空隊活動内容の理解による活動補助の習得。	・プロペラ等にあたり負傷する。 ・吊り上げの際に落下する。 ・ダウンウォッシュにより負傷する。	A	静岡県防災ヘリコプター運航管理要綱等
				水上安全法 (日本赤十字)	溺者救助に対する基本泳法の習得。 救助方法の習得。 水上における有事の際の溺水回避方法及び訓練の指導に活用できる知識の習得。	・身体能力の限界を超えることにより溺れる。 ・プールサイド等にすべり転倒する。	A	P11 (10)水難救助訓練

※ 消防学校の教育内容は、平成26年度の教育カリキュラム

初任教育 各種訓練のリスク管理表

リスク A: 致命的な受傷をする可能性がある。
 B: 中程度の受傷をする可能性がある。
 C: 軽度の受傷をする可能性がある。

教育指標			消防学校の教育内容			消防学校のリスク対策（全訓練共通項目 教育訓練安全基準）		
教科目 (時間数)	訓練目的	分類指標	訓練時間	訓練内容	訓練説明	リスク内容	リスク	リスク対応（第6 訓練指導技術）
体育 (55h)	体育理論の習得、実践及び体力の練成	消防職員の体力づくり トレーニング要領と実践	38h	体力測定	自己体力レベルの測定を目的として以下の種目を行う。(種目:100m走、274.3m走、立ち三段跳び、懸垂、1500m走、腹筋、4km走、反復横とび、握力、立位体前屈) ※入校中2回実施 ※全種目を2日間に分け実施	・身体能力の限界を超えることにより負傷する。	C	P13 (12)体育 ケ 体力測定
				球技大会	バレー、サッカー、ソフトボールなどの団体球技を通じて共同精神の涵養と体力の練成を行う。	・対人接触等により負傷する。		P14 (12)体育 コ 各種スポーツ
野外訓練	野外での集団訓練を通じて体力、精神力、団結力の涵養を図る。		15.3h	浜石岳	約20kgの装備を背負い、学校から浜石岳(標高707m)までを往復する。(約30km、9時間)	・熱中症、脱水症状、足つり。 ・身体能力の限界を超えることにより負傷する。	B	P12 (11)野外訓練
				夜間行軍	約20kgの装備を背負い、富士市マリンプールから学校までを夜間に行軍する。(約30km、20:30～翌朝6:45 約10時間)	・熱中症、脱水症状、足つり。 ・身体能力の限界を超えることにより負傷する。		P12 (11)野外訓練
その他	【早期体育】 健康管理、体力練成及び一日の体の準備。 【実科査閲】 半年間の訓練の成果を所属長に披露する。			早期体育	ストレッチ、消防体操及びランニング等の体力練成。(6:50～7:20 約30分)	・早期に体を動かすことにより、負傷するリスクが通常の訓練より高くなる。	C	P12 (12)体育
				実科査閲	訓練礼式、機器取扱訓練、救助訓練、消防活動訓練、消防活動応用訓練。	・各種訓練のリスクによる。		P5 ～ P14 第6 訓練指導技術 全般

※ 消防学校の教育内容は、平成26年度の教育カリキュラム